

広渡川水系河川整備基本方針

平成13年7月

宮 崎 県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び 計画横断形に係る川幅に関する事項	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を 維持するため必要な流量に関する事項	6
(参考図)	
広渡川水系図	7

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

広渡川は、その源を日南市と北郷町との行政界の鱈塚山に発し、北郷町を流下しながら黒荷田川、猪八重川など大小の支川を合わせ日南市内で酒谷川を合流し日向灘に注ぐ、幹川流路延長39.0km、流域面積330.4km²の二級河川である。

また、広渡川最大の支川である酒谷川は、その源を日南市と三股町との行政界の標高800m程度の山間部に源を発し、途中左支川割岩谷川、大谷川等の中小支川を合流しながら東流し、左支川大根川を合流後、日南市街地を貫流して、その後、南に流れを変えて右支川戸高川を合流後、河口付近で広渡川本川に合流する流域面積130.0km²の河川である。

広渡川流域には、2つのダムが建設されており、広渡川筋の広渡ダムは平成6年に竣工、酒谷川筋の日南ダムは昭和59年に竣工し、洪水調節と流水の正常な機能の維持を行っている。

流域の気候は温暖多雨で、平均気温約18℃、平均年降水量約2,700mm（油津測候所H2～H11の10年間の平均値）と利水面では恵まれている一方、年平均2～3回襲う台風は水源地帯に豪雨をもたらし、多くの被害を与え、常にこの地方の経済発展に大きな支障となっている。

流域の地質は、主として新生代古第三紀日南層群の頁岩や砂岩とこれらの砂岩頁岩互層からなっている。また、広渡川、酒谷川の中～下流域は第四紀始良火山のシラス及び溶結凝灰岩に広く覆われている。

河川の上流部は、河床勾配1/50～1/100と比較的急峻で、川幅は20m程度であり、周辺の山々は国有林の飢肥杉やイスノキ・ウラジロガシ群集をはじめとする照葉樹林など手つかずで自然豊かな植生が分布している。河川は、その合間を縫うように無数の沢が幾筋もの溪流となって注ぎ込んでおり、ヤマメなどの魚類やカワネズミなどの哺乳類の生息環境を形成している。また、2つのダムの周辺では親水公園やキャンプ場などが整備され、市民の憩いの場となっている。

中流部にくると、河床勾配1/100～1/500、川幅50～100m程度と流れは穏やかになる。動植物にとっても良好な瀬・淵が形成されており、河川内にはツルヨシ群集・河辺ヤナギ低木群落が分布し、ウグイ、オイカワなどの魚類やチュウサギなどの鳥類が生息している。また、毎年、アユ、ウナギ、コイなどが放流

されている。

下流部は、河床勾配1/1000、川幅100～200m程度となり、日南市中心部を悠々と流れる。広渡川と酒谷川が合流する付近は、アユの産卵場となっており、河口付近の感潮域は、アカメなどの貴重な生物の生息地やシギ類などの水鳥の飛来地となっている。

また、支川酒谷川の中流部に位置する^{おびじょう}飢肥城などに由来する歴史的遺産に恵まれ、飢肥城下町に隣接する今町橋付近では、せせらぎ水路や散策路が整備され親水公園として利用されている。

水質は、広渡川の上流、下流、河口部において現在までBOD(75%値)1mg/l程度と低い水準で推移し、ほとんどの年で広渡川で指定されているそれぞれの環境基準値(上流：BOD75%値1.0mg/l以下、下流：BOD75%値2.0mg/l以下、河口部：BOD75%値3.0mg/l以下)を達成しており、概ね良好な状態である。

また、支川酒谷川においても、BOD(75%値)3mg/l以下で推移しており、概ね良好な状態である。

これまでに、平地部では、しばしば洪水被害が発生していることから、広渡川本川の河口から15.9kmの区間で築堤・掘削等が実施(H4～)され、酒谷川の飢肥地区付近においては、洪水による護岸復旧工事が実施(S53～H4)されたものの、洪水被害の発生しやすい箇所すべてに対して十分な効果を得られるものではない。

近年では、平成9年9月に発生した台風19号が九州地方南部で2日間にわたり停滞したことにより河川が増水し、広渡川及び酒谷川の無堤区間や流下能力の不足している区間において氾濫し、浸水家屋が442戸にのぼるなど甚大な被害が発生している。

河川水の利用については、農業用水としては、耕地のかんがいに利用され、広渡川で水道用水、酒谷川で養魚用水として各1箇所から取水されている。また、工業用水としては、日南市の中心に位置する王子製紙日南工場に供給が行われている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川整備の現状、水害発生状況及び河川利用の現況、流域の文化並びに河川環境の保全を考慮し、また関連地域の社会経済情勢と調和を図りながら、環境基本計画等との整合を図り、かつ、土地改良事業等の関連工事及び既存の水利施設等の機能維持に十分配慮し、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図る。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、50年に1回程度発生する降雨による洪水を安全に流下させるために、堤防の新設、拡幅及び河道の掘削を行い、護岸、水制等を施工する。また、内水被害の著しい地域においては、内水被害に対処する。

あわせて、整備途上段階で施設能力以上の洪水が発生した場合にも、できるだけ被害を軽減させるよう、一連の堤防を有する区間において必要に応じ堤防強化を図るとともに、計画規模を上回る洪水に対しても、被害を極力抑えるため、関係機関や地域住民等と連携して様々な対策を推進する。

なお、支川及び本川上流区間については、本支川及び上下流のバランスを考慮し、水系として一貫した河川整備を行う。

河川水の利用に関しては、諸用水の需要に対処するため、広渡ダム・日南ダムを完成させ、流水の正常な機能を維持し、河川環境の保全に努めてきたところである。今後とも、関係機関と調整を行い、水資源の合理的かつ有効な利用の促進を図るとともに、現在の良好な水環境の維持・保全に努めるものとする。

さらに、渇水時における関係機関等の調整が速やかに図られるよう必要な情報の提供に努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、治水及び利水との調和や関係自治体等と調整を図り、流域の自然環境・社会環境から見た地域特性を踏まえ、地域の社会的ニーズに配慮する。また、広渡川流域には手つかずで自然豊かな植生が分布していること、また貴重な野生生物や身近な生物の生息・生育空間であることなど、広渡川の豊かな自然環境を保全していくこととする。

また、人と川との共生を確保するため、流域の歴史・文化や良好な河川景観を生かしつつ、水面利用に配慮するとともに、レクリエーション、自然環境との触れ合い、環境学習ができる場などを整備・保全する。

さらに、地域の活性化が図られるよう配慮するとともに、地域住民に対して積極的に河川の情報を提供し、地域住民や関係機関と一体となった川づくりが図られるよう努める。

また、地域の健全な水循環を構築するため、関係機関を始め流域全体で一体となって取り組んでいく。

河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮させるよう適切に行うものとする。特に、河畔に生育している竹林等の樹木については治水・環境面での機能を十分配慮した維持管理を行う。また、広渡川は河川公園等により広く河川空間利用がなされていることから、ボランティア等と相互に協力しながら、河川の美化（ゴミ等の投棄の防止等）に努める。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、基準点広渡橋地点において $2,950\text{m}^3/\text{sec}$ とし、このうち上流の広渡ダム及び日南ダムにより $300\text{m}^3/\text{sec}$ を調節して河道への配分流量を $2,650\text{m}^3/\text{sec}$ とする。

基本高水のピーク流量等一覧表

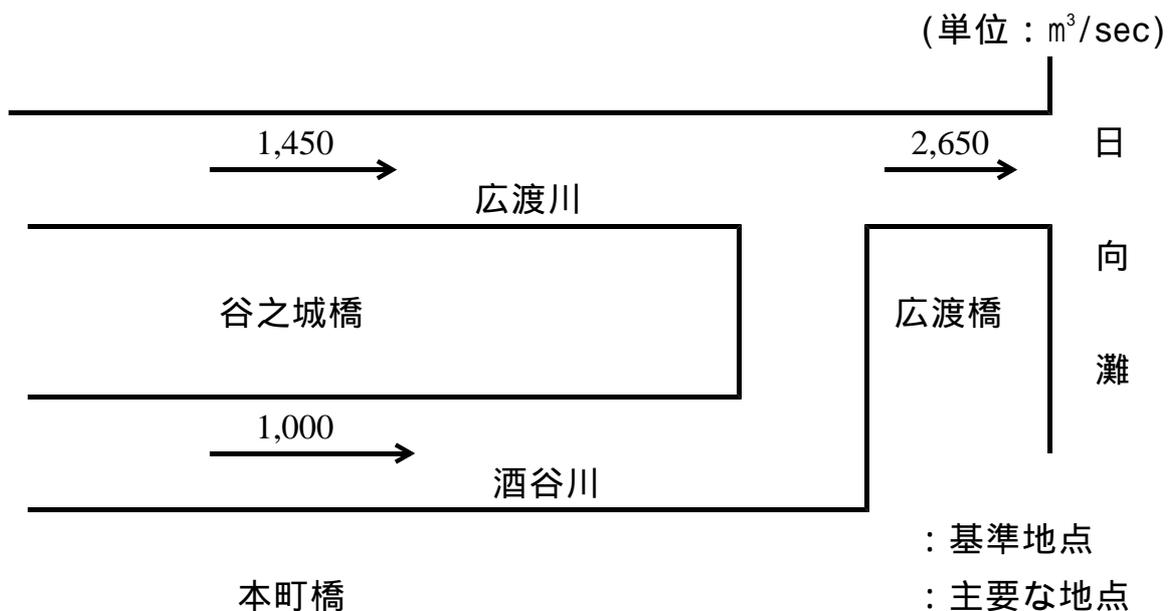
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水の調節施設による調節流量	河道への配分流量
広渡川	広渡橋	$2,950\text{m}^3/\text{sec}$	$300\text{m}^3/\text{sec}$	$2,650\text{m}^3/\text{sec}$

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、広渡川の谷之城橋地点において $1,450\text{m}^3/\text{sec}$ 、その下流で酒谷川及び残流域からの流入量を合わせ、広渡橋地点において $2,650\text{m}^3/\text{sec}$ とし、河口まで同流量とする。

また、支川酒谷川の本町橋地点において $1,000\text{m}^3/\text{sec}$ とする。

広渡川計画高水流量図



(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項
 本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口及び合流点からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)
広渡川	広渡橋	河口から 0.30	+3.21	277.0
	谷之城橋	河口から 14.1	+34.33	112.5
酒谷川	本町橋	合流点から 6.7	+19.76	113.5

注) T.P. : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項
 広渡ダム地点及び日南ダム地点から下流における既得水利としては、工業用水として2箇所において $1.670\text{m}^3/\text{sec}$ 、水道用水として $0.005\text{m}^3/\text{sec}$ の合計 $1.675\text{m}^3/\text{sec}$ の許可水利と養魚用水として $0.900\text{m}^3/\text{sec}$ 、農業用水として約1,000haを対象としたかんがい用水の慣行水利がある。

これに対して過去30年間（昭和44年～平成10年）の広渡川益安橋地点における平均低水流量は約 $3.760\text{m}^3/\text{sec}$ 、平均濁水流量は約 $2.030\text{m}^3/\text{sec}$ であり、酒谷川東光寺橋地点における平均低水流量は約 $2.420\text{m}^3/\text{sec}$ 、平均濁水流量は約 $1.430\text{m}^3/\text{sec}$ である。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、利水の現況、動植物の保護・漁業等を考慮し、広渡川益安橋地点において $0.835\text{m}^3/\text{sec}$ 、酒谷川東光寺橋地点において $0.835\text{m}^3/\text{sec}$ とする。ただし、広渡川益安橋地点、酒谷川東光寺橋地点において取水されている工業用水の取水量を含む。

なお、広渡ダム地点及び日南ダム地点下流の水利使用の変更に伴い、当該水量は増減するものである。

(参考図) 広渡川水系図

